みちのく

少　年　編

—第４６号—

令和６年度　仙台矯正管区

みちのく
少年編
第四十六号
仙台矯正管区

刊行のことば

本誌は、昭和五十五年の創刊号以来毎年刊行し、本号で四十五号を数えております。

当管区では「みちのく書画文芸コンクール」を開催しており、本誌には、同コンクールに応募した、当管区管内少年院の在院者の書画作品及び文芸作品のうち、各分野で御活躍の先生方の審査により入賞した作品を掲載いたしましたので、ご覧ください。

令和七年三月

仙台矯正管区

表紙の題字は久道石静氏の揮毫によるものです。

目次

【文芸部門入賞作品】
作文の部……【選評】佐藤淑子 先生……2
詩の部……【選評】原田勇男 先生……11
短歌の部……【選評】上林節江 先生……16
俳句の部……【選評】鈴木三山 先生……18
川柳の部……【選評】水戸一志 先生……21
文芸部門審査総評……24

【書画部門入賞作品】
絵画の部……【選評】吉田利弘 先生……26
ポスター・カレンダーの部……【選評】鈴木智枝 先生……31
毛筆の部……【選評】村山柳雅 先生……34
硬筆の部……【選評】村山柳雅 先生……39
書画部門審査総評……43

作文の部

審査員

宮城県芸術協会運営委員
宮城県歌人協会顧問
歌誌「群山」編集同人

佐藤　淑子　先生

金

あおぞらの星を読んで

青葉女子学園　砂時計

この本は、非行少年の非行を防止し、更生に向けて夜の街をパトロールする夜回り先生と呼ばれる水谷修さんという方の本です。私が、初めて夜回り先生の本と出会えたのは、鑑別所にいるときでした。私は、逮捕されてから本を読むようになりました。それまでの私は、本を読む生活とは真逆の生活を送っていて、そんな私は、本を読もうと思ったこともなく、もちろん本の良さというものが分かりませんでした。当時は、他の本と同様に、興味などなく、何気ない気持ちで、夜回り先生の本を手に取っていました。読み進めていくと、自然と涙が溢れてきて、本を読んで涙を流したのは、夜回り先生の本が初めてでした。私は、その出来事から、夜回り先生の本に興味を持ち、たくさん読むようになり、少年院でも夜回り先生の本を見つけ、今回、「あおぞらの星」の読書感想文を書くことに決めました。

この本の中に出てくる言葉に、私の気持ちは大きく動かされました。まず一つ目が、「人に何かしてごらん。」という言葉です。この言葉を見て、これまで、誰かを助けようと思ったことはありませんでしたが、どんなに小さなことでも、自分ができることをして、誰かを助けてあげたいなという気持ちになりました。小さな思いやりなどを日々大切にして、誰かからの「ありがとう。」という言葉の一言を心の支えにして、自分への成長につなげていきたいと強く思いました。また、それと同時に、私自身も誰かに何かをしてもったときに、やってくれて当たり前だと思わずに、素直に一言「ありがとう。」の言葉を大切にしようと思いました。お互いに思いやり、助け合うことで、人は成長し、良い人間関係ができるのだと思いました。

そして、二つ目が、「いいんだよ。」という言葉です。「いいんだよ。」という言葉を見て、何がいいんだろうと思うかもしれません。けれど、今日までの生活で何かを失敗してしまっても、明日という日からまたスタートすれば良いという意味がその言葉には込められていました。そして、その言葉で涙が出たのは、後悔という気持ちからきたものだと思いました。涙を流しながら、この本を読んで、社会にいたときに夜回り先生に出会えていたら、何か変わっていたのではないかとさえ思いました。けれど、社会にいるときに、出会えていても、当時の私は、何も思わなかったと思います。社会にいたときは、軽い気持ちで、「どうせいつか逮捕されるんだから。」と思っていました。

しかし、実際に逮捕されたときの心のダメージは大きく、「あんなことをしなければよかった。」と自分が辛くなると、都合の良いことばかりを考えていました。けれど、その後悔から改めて気付けたこともあります。それは、家族の大切さです。社会にいたときは、毎日会えるのが当たり前でしたが、今はその当たり前が当たり前ではなくなったことを実感し、家族の大切さに改めて気付き、逮捕されてからこの本と出合えたからこそ、私の心に刺さるものがあったのだと思います。

これまで、後悔しかなくてずっと前に進むことができませんでしたが、夜回り先生の言葉を見て、未来は変えることができるのだと思えるようになりました。私は、家族を毎日のように裏切ったり、たくさんの人を傷付けて、どれほど傷つけてもやめようとせず、その結果今の少年院生活に至ってしまったという後悔が完全に消えたというわけではありません。後悔は後悔として、私の中に残っていますが、落ち込んでばかりいるのではなく、私は変われるのだということを自分自身に言い聞かせ、自分を信じていこうと思いました。

このように、私は、夜回り先生の本で大きく自分の気持ちが変化しました。夜回り先生の本を持っていたら、何でも頑張れるような気持ちになり、本というのは、人の気持ちや人生を大きく変えてくれて、とても学びになる素晴らしいものだと感じました。

私はこれまで、たくさんの人を傷つけてしまいました。その方々の傷を

なかったことにはできませんが、自分自身の未来や何度裏切っても、私を信じて待っていてくれる家族のためにも、自然と人にやさしくでき、素直にかっこいいと言える自分になれるように、残りの少年院生活でたくさんのことを学んでいきたいと思います。

寸評

読書感想文らしく作者が『あおぞらの星』の本をどのように読み取ったかが、経験と共にきちんと述べられていることを評価しました。この本から夜回り先生の姿に出会い読書の喜びを知りさらに、作者の心の変化が気負いなく表現されています。今までの自分勝手な行動を後悔し、家族の大切さや暖かさを知り、未来に希望が持てたこと、自分を信じることができたのは大きな心の成長です。これからもたくさんの本を読んでください。

銀

少年院

東北少年院　K・T

僕は社会当時から作文を書いたりするのが大がつくほど嫌いでした。今でも書くのは嫌いです。でも担任の先生に期待されてその期待に応えたくてこの作文を書く事に自らの意思で決めました。

僕は少年院は今までどんな場所と思っていたのか、今はどう思っているのか、今後自分が頑張りたい事、将来どんな人になってどんな生活を送っていたいかをこの作文に書こうと思います。

みなさんは社会当時、少年院はどんな所で少年院に対してどう思っていましたか？

僕は社会当時少年院とは自由や楽しいことがなに一つない苦しい場所だと思っていました。

不良世界では少年院は男の勲章の一つであると思います。そういった事もあり自分は少年院に入る事への憧れは少しありました。

僕は正直少年院へ入れば箔がつくもんだと思っていました。しかしいざ入ってみると僕が社会当時思っていた場所とは全然違いました。そこそこ自由があり楽しい事も多々あり苦しいだけの場所ではありませんでした。

僕が何らかの非行を犯し、少年院という場所に入院したにもかかわらず税金で、少年院で何一つ不自由のない生活をさせていただいています。

僕はこういった事もあり少年院に対しての見かたなどは変わりました。

今までは少年院に入院して良かったなと心から思います。

少年院の先生方はどんな時でも優しく接してくれますしどんな時でも自分を支えてくれます。そういった支えもあり僕は少しずつではありますが頑張ろうといった気持になりました。

自分は社会当時、自己中心的な所があり、自分の思ったように物事が進まなければ感情的な行動、言動をしてしまったり、人を傷つけてしまったりする事が多くあり、何度も失敗してきました。

僕は少年院生活での課題はたくさんあります。出院までたくさん時間があるので、自分自身の課題と向き合いたいと思います。

少年院で頑張りたい事は対人面や自分自身の成長です。

僕は対人関係では嫌いな人、苦手な人に対して対応が雑になってしまったりする事があります。自分は結構人を下に見てしまったりする事が多いです。自分ではそんなつもりがなくても知らない間に他者に対して雑になり不快な気持ちにさせてしまっているかもしれません。

今後は自分の行動、言動に目を向け、しっかりと意識して生活しようと思います。

もう一つの自分自身の成長についてどのような所を成長させたいかというと、僕はまだ他の人と比べ、考え方が幼い所や視野が狭かったりします。そういった細かい部分から直し最終的には人としてしっかり更生し、今までご迷惑をお掛けしてきた方々に自分の変わった姿をお見せできたらいいなと思いますし行動でも見せていきたいです。

もう一つ頑張らないといけない事は本件非行で被害者に与えた影響の大きさ等をじっくり考えたいと思います。

自分はまだ軸がないのでその軸もしっかりみつけていきたいです。常日頃から自身にベクトルを向けて頑張ります。

みなさんは将来、自分がどうなっていたいですか？

多くの大人は立派な人になりなさいなどと言うと思います。

僕自身は別に立派になろうとも思いませんしなりたいとも思いません。普通の犯罪・非行をしない人になれればそれで自分はいいと思っています。でもただ犯罪・非行をしない人になっただけではダメだと思うので、それだけではなく、僕は思いやりがあり、謙虚に人の話を受けいれたり、僕の寮の寮主任の先生みたいに何事にも全力でやるカッコイイ人になりたいなと思います。

みなさん一人一人に将来の夢というものはあるでしょうか？

僕には将来の夢があります。将来の夢を叶えるためには今頑張るべきだ

と思います。夢は大きい方が僕はいいと思っています。

僕は少年院に入院し将来の夢というものを持てましたしその夢を本気で叶えたいという強い気持ちになりました。

少年院という学舎の場所で僕は一歩一歩夢に向かって日々努力を続けます。

寸評

冒頭に自分の書きたいこと、伝えたいことがきちんと記されて文中にすっと入って行けるのは、大変良い構成だと思います。とても難しいことながら、自分の内面を深く見つめて、今の院生活に護られていることに気付き、先生を尊敬し、普通でありながら「全力で」生きたいという願い、将来の夢まで見つけられた過程に心打たれました。また、「夢は？」と読者に投げかける表現にハッとさせられ、魅力的でした。

銅

中途半端な挑戦

東北少年院　O・J

私は、これまで色々なことに挑戦してきましたがすべて中途半端なまま終わってしまっています。

私は、小学校一年の時に少林寺拳法を始めました。私の家では、男は少林寺拳法をやると決まっていて嫌ではなかったので、全力で稽古に励んでいました。中学の頃には、段を持ち目指すものが無くなり、だんだん稽古を休むようになりました。

中一になるまで大会では、多くのメダルを手にして道場の先生にも期待されていました。期待を裏切らない結果を出し続け、高校も全国大会常連校に推薦で入ることが決まっていました。期待されるのは最初の頃は良かったのですが、期待が大きくなるにつれて、受け止められなくなり、投げ出してしまい、ほとんど道場に行かなくなり稽古の時間は少なくなり、遊ぶ時間が増えました。

遊びも最初はスポーツなどでしたが、触法行為に変わり夜は遊び、学校は行くけど、寝る場所となり、昼夜逆転の生活になっていました。関わる人も不良に変化し、私に逆らう人は暴力で分からせてやろうと思うようになり、悪口を言って来る者には手を出し、相手が謝罪するか誰かが止めに入らなければ、私は自分を制御することが出来ないくらいでした。

暴力で解決する理由の一つは、自分が強いと思い込んでいたからです。少林寺拳法は、自分や周りの人の身を守るためのものであり、自分からは手を出してはいけない教えでしたが、正しい使い方をしないで、自分の思い通りに出来る道具としか思っていませんでした。そんな生活を繰り返しても、家に帰ることができ、道場の先生に「お前は何のために少林寺拳法をやってるんだ」と怒られました。道場の先生は、休みの日に温泉に連れていってくれたりして、私を更生させてくれようとしていましたが、裏切り、同じ事を繰り返し、施設に入ることになってしまいました。当然、少林寺拳法は続けられなくなり、高校の推薦も無くなりました。

施設の中では、サッカーに熱中になり、高校では、サッカーをやろうと少林寺拳法の事なんて頭から無くなっていました。今思うと、なぜ推薦でなくても、全国常連校に入れる学力があったのに、選択肢に入れなかったのかと後悔しています。

結局、適当に選んだ高校では、やりたい事もなく、とりあえずサッカー部に入りましたが、適当に選んだ学校、部活では、うまくいくはずもなく退学をしました。その後、高卒は持っておきたかったので通信制に入学しました。その学校には、少林寺拳法部があり、先生にも「段持っているならやりなよ。」と言われましたがその頃には、不良の世界に染まっていて、少林寺拳法を改めて始める気もなく、学校では、意味の無い時間を過ごしていました。また地元では、偶然道場の先生と会った時には、今度顔出せよと言ってくれましたが、刺青が入っているし行こうにも行けないという気持ちと、もう一度やりたい気持ちで葛藤しましたが、いまさら手遅れだと思い、救いの手を差し出してくれた先生を見捨てました。

私は、今現在とても後悔しています。少年院に入り、社会当時を振り返り、自分は今まで色々な事に挑戦するのですが、その裏では非行を繰り返し、その挑戦は中途半端に終わり後悔の繰り返しです。少林寺拳法も段を持ち、自惚れて方向性を見失い、続けられなくなり、ピアノはコンクールで銀賞を取り満足して続けられなくなり、高校もそこそこの学力がある自分に自惚れて適当に選び、結局後悔しています。

今になってあの時こうしていればなど思います。正直中途半端なまま終わりたくないのが本音です。少林寺拳法だってピアノだって嫌ではありません。少林寺拳法は出院してからだって出来ます。先生に謝罪して始められますし、ピアノは習う時間は無いですが音楽で有名になりたいという夢があります。私の周りには、ドラムをやっている友人やラッパーなどがいて、ジャンルは違いますが色々なジャンルの音楽を仲間と作り挑戦を再スタートさせたいと思います。今まで挑戦してきて人生躓いてばかりで、遠

回りしすぎていますが、少年院に入っていた過去があったとしても、出発地点はマイナスですが、真面目に生活していれば、チャンスは平等にあると思うので、挑戦を最後まで達成させて充実した生活を手に入れたいです。少年院出院者が、テレビに出ていて、そこで私は、努力で人は変われると分かったので、目指すものを手に入れるのももちろんですが、後悔のない人生が一番幸せだと思いました。

寸評

今まで自分がたどって来た様子を正直に率直にかつ具体的に書き綴ってあり好感を持ちました。少林寺拳法の段を持ちながらそれを暴力に使い、練習を止めたこと、ピアノや高校生活も中途半端になったことを隠していません。これまでに犯したことを反省し、退院後の生き方と夢をしっかり持つことができたと表しています。更生に向けた強い意志に拍手を送ります。優秀な能力を十分に活かしてください。

佳

注文の多い料理店を読んで

盛岡少年院　C・I

この注文の多い料理店は、僕が小学生くらいの頃に何かの本で読んだことがあり、その時この本の内容をすごく気に入って何度も繰り返し読んだ記憶もあったので、何年振りかに読んでみようと思い、読書感想文に選びました。

この本は、岩手県花巻市出身の宮沢賢治さんが書いた数々の名作の中でも、もっとも有名と言ってもいい童話です。

本の内容を簡単に説明すると、二人の若い紳士と案内人、二匹の大きな犬が狩りをする為に山の中に入りましたが、あまりの山の険しさに、案内人は道に迷ってはぐれてしまった上に二匹の大きな犬は泡をはいて死んでしまって二人の若い紳士は山を下りようとしましたが、どっちへ行けば戻れるのかが分からず、お腹も空いて困っていた所、立派な西洋造りの建物があり、玄関には「西洋料理店　山猫軒」という札があり、それを見た二人の紳士は大喜びで中へと入っていきました。

建物の中は不思議な構造で扉が何枚もあり奥へと進んで行くと、「当軒は注文の多い料理店ですがどうかそこはご承知ください」と書いてあり、それを二人の紳士は注文が多くて準備に時間が掛かるという事だと解釈し、更に奥へと進んで行きました。

するとそこには、ブラシが置いてあり、扉には「ここで髪を整え、靴の泥を落としてください」と書いてありました。

その指示に従って次の扉を開けると次は「鉄砲を置いてください」と指示があり、更にその先にも扉が何枚もあり、進んでいくにつれて指示がどんどんと不思議な物へとなっていきました。

それでも二人の紳士は指示に従いようやく最後の扉の前に立つとそこには「注文が多くてうるさかったでしょう。最後につぼの中の塩を体にもみこんでください」と書いてあって二人の紳士はようやくそこで自分たちが注文されている側で食べられてしまうという事に気づき、鍵穴には二つの青い目玉がのぞいていて、中からは調理方法をどうするのか等の恐ろしい声が聞こえてきて、逃げようにも扉が開かず二人は顔をくしゃくしゃにして泣いていた所、あの二匹の大きな犬が扉を突き破って中へと入っていき、猫の泣き声が聞こえて部屋は煙のように消え、二人は草の中に立っていました。

その後二人は無事に帰ることが出来ましたが紙くずのようになった二人の顔はもとに戻る事はなかったという話です。

この話を読んでみて、内容が面白いのは勿論、文章の隅々に施されている工夫がすごいなと思いました。

それは物音の表現の仕方で、この物語の中で宮沢賢治さんは、風の音を「どう」草は「ざわざわ」本は「ごとんごとん」と表現していて、それらのものからそんな音が出るかなと思う反面で、なんとなく想像がつくし、その音ひとつで臨場感も出ているなと思いました。

他にも、一度は死んでしまったはずの犬が何故か生き返って二人を助けに来たのか、山猫達はその後どうなったのか、二人の顔のくしゃくしゃが元には戻らなかった理由など、本の中では細かく説明されていない分、自分で色々と想像を働かせることが出来て、それも本を楽しめる要素の一つなのではないかなと思いました。

また、自分はこの物語から、作者の宮沢賢治さんが何を伝えたいのかなという事を考えた時に、真っ先に思いついたのは、自分に都合の良い解釈をするなという事ではないかなと思いました。

注文の多い料理店に入ってから、普通ではありえないような数々の不自然に対して、二人の紳士は特に疑問を持つこともなく、「偉い人達がよく来るから」等の都合の良い解釈をした結果、山猫達に食べられそうになって顔もくしゃくしゃになってしまったので、都合の良い解釈をするといつか痛い目にあうぞという教訓の様な物を感じました。

自分も実際に今までの生活で自分に都合の良い解釈をして失敗してしまっ

た経験があったので、この本を読んで改めて解釈の仕方には注意していこうという気づきを得られたのに加えて、大人に近い今の自分が読んでも変わらずに面白いと思える話を創る宮沢賢治さんは本当にすごい人なんだなという事です。

寸評

原作の内容が分かりやすく書かれていて文中への導入はとても良いと思いました。しかし引用が長すぎたのが少し残念でした。作者は本を読み進めながら感じたことを具体的に表現されていて納得させられました。また、読み終えてどこに興味や疑問を持ったのかが率直に表現され作者の考え方が伝わりました。宮沢賢治の伝えたいことを理解しているこの作文はとても良く書けていて優れていると思いました。

詩の部

審査員

宮城県芸術協会会員
日本現代詩人会会員
日本文藝家協会会員
宮城県詩人会顧問

原田　勇男

金

みんな誰かの宝物

青葉女子学園　椿

「楽しかったな、あの頃。」そう当時の私は、言うと思う。

社会のルールを守らず、人を傷付け、人に傷つけられてきた。それでも、居場所を求めて無知のまま、死と隣り合わせの狭い世界で、もがきながら生きてきた。

弱い自分を受け入れられずに、「強い女でありたい。」と思いを抱き、今日もまた、仮面を被り現実から逃げるために夜の街へ溶け込む。

自分の気持ちなんて知らんぷりして、弱音に蓋をする。

ろくに人の言葉も聞かず、自分勝手に過ごして、母を泣かすことしかできなかった。

そんな私に母は、毎日ご飯を作ってくれた。帰ってこないと分かっていても、いつも帰りを待っててくれた。

今なら、待っていてくれる人がいるということがどれだけ幸せなのか分かるけど、当時の私は、その幸せを、「当たり前。」と感じていたんだ。

ある日、突然母は言った。

「足洗って。」と。

母は言った。

「あなたが大切なの。」と。

その言葉たちに隠れた気持ちも、意味さえも、学園に来なきゃ知らぬまま生き続けるとこだった。

大切にされるとは何か、本当の私ってどんな姿をしているのか、そして、なにより母は、どんな思いだったのか、どれだけ家族に、大切にされているのかを、今になり知った。

母へ、ごめんじゃ済まないけど、ごめん。

母へ、私を信じ愛してくれて、「宝物。」って言ってくれて、ありがとう。

私、絶対に変わるから、待ててね。

寸評

自分勝手な青春だ、った。社会のルールを守らず、本当は弱いのに「強い女でありたい」との思いから、人の言葉を聞かず自分勝手に強がった。だが母は「足を洗って」「生きていてよかった」「あなたが大切なの」と娘を慈しんだ。それを知って娘は目が覚めた。詩の形式にとらわれず、率直な言葉で自分を見つめている。母と娘の愛情が胸を打った。

銀

にんげんとして

盛岡少年院　I・S

既に出来上がったものに
何かを加えるという行為は
なんとも無謀な挑戦である
誰も気が付かない所で
綻びが生まれている
表面では異常がなくても
その一点に触れられてしまえば
いとも簡単に
脆く壊されていく
その瞬間(とき)にはじめて
〝過ち〟に気付くんだ

空を優雅に飛び回る無数の虫や鳥
山を守り街を見守っている草木
地球を潤し時には激しく騒ぐ水
壊れていくのは何故でしょう

純粋な心と希望の瞳を持つ子ども
歩き慣れたいつもの道
仲良しな友人との関係
あっという間に過ぎる義務教育
色んな経験をする高校生活
汚れていくのは何故でしょう

ごみを当たり前の顔してポイ捨てしたり
心のない言葉を投げ付けたり
ここまで作りあげたもの
壊して汚して
なくしてませんか

人間という職業なら
考える脳と心があって
気付きや反省
それをする時間と体
待っている場所と人が
そこにあるはず
そんなに遠くない所に
いや、一番近い所に

寸評

他の作品には自分勝手な生き方や非行に走った経緯を説明し、反省するパターンがみられるが、この筆者は自然も人間もどうして壊れて行くのか、汚れて行くのだろうかと考える。人間はゴミを捨てたり、心ない言葉を投げつけたりするが、身近なところでそのはしたない行為をやめよう。それが人間として当たり前のことだと説いている。

銅

へたくそな生き方

東北少年院　O・J

大丈夫と強がって
作り笑いをして
包み隠してきた
ボロボロになるまで耐えて
本当は弱いのに
強いフリして
誰にも弱音を吐けずに
虚勢を張り
見栄を張ってきた
笑っていても泣いていても
同じように時は流れる
歩いていても立ち止まっていても
皆平等に時間は過ぎていく
悩みはどこからやってくるのだろう
迷いはどうして生まれるのだろう
答えなんか分からない
だけど悩みも迷いもすべて
今以上の自分を探している証
だから乗り越えたなら
笑える日が来るよ
たがいに支え合い
支えられて
助け合い
喜び
悲しみ
痛み
涙も
分け合い日々を生きている
悩み辛いのは
迷い苦しいのは
自分だけではない
強い自分も弱い自分も
ありのままの自分のすべてを
誰の前でも
かざらないで
素直に生きていけば良い

寸評

この筆者も本当は弱いのに、強いフリをして虚勢を張り、見栄を張って生きてきた。泣いても笑っても、同じように時は流れる。そこで考えた。悩みや迷いは「今以上の自分を探している証だ」。悩みを抱えているのは自分だけではない。ありのままの自分を生きること。誰の前でも飾らないで、素直に生きて行こうと決意する。これも旅立ちの歌だ。

佳

自己表現の正解へ

東北少年院　H・H

自分は本当は家族が大好きで
もっとかまってほしかったし
もっと分かってほしかったし
もっと知ってほしかったし
もっと仲良くしたかった
いつも上手く表現できずにいて
正しい表現が分からなかった
気持ちを伝えるのが恥ずかしかった
この気持ちを笑われると思っていた
居場所がなくなるのが嫌だった
居場所がなくなるのが怖かった
何度も何度も失敗したせいで
何度も何度も迷惑をかけて
何度も何度も裏切った
それでも毎回しっかり怒ってくれて
こんな自分を育ててくれた
普通の生活を送らせてくれた
今になってやっと間違いに気づいた
今になってやっと正解が分かった
本当の自分の表現の仕方を

寸評

自己表現が下手なばかりに、家族に対しても愛情は持っているのにどう接していいかわからない。そんな人間関係の悩みがあると、親子の間もしっくりしない。しかし、親はそんな息子でも間違いを犯せば叱ってくれたし、こんな自分でも育ててくれた。今になってそれに気づき、自分をしっかり表現しようと思い、自立への第一歩を踏み出した。

短歌の部

審査員

日本歌人クラブ会員
「地中海」会員
宮城県芸術協会　文芸部運営委員
宮城県歌人協会「地中海湾の会」代表

上林　節江　先生

金

母親が 思いを込めた 便箋は
天より崇(たか)く 心を照らす

東北少年院　T・T

寸評：「崇」の漢字を選んだ点がヒット。この語には「尊ぶ」や「満ちる」の意味があります。作者は、その思いを込めたのですね。「便箋」では無機質なので、「この手紙」とすると母の思いの詰まる文章となり深みが出ます。

銀

時がたち 風化していく 過ちが
無くす思い出 変わらぬ嘆き

東北少年院　オジギソウ

寸評：結句「変わらぬ嘆き」の表現が入賞の決め手に。過ちがもたらした長い時間は思い出を風化させるが、嘆きは無くならないという思いが主題であり、内容の深い短歌になりました。

銅

花火かな ドンドンドンと 耳残り
花火見たいな 出たら見にいく

東北少年院　I・R

寸評：「出たら見にいく」に、意欲が宿っています。花火音を漫然と聞くのではなく、思いを深めたところに詩情が生まれました。意欲は希望になりますから、生きる上で大切な要素となります。

佳

ありがとう この一言が どれだけの
意味があるのか 学んだよ

青葉女子学園　砂時計

寸評：「ありがとう」は、美しい日本語。人それぞれに抱く意味合いがあると思います。砂時計さんは、どんな場面でどんな事を学んだのでしょう。次回はそれを、具体的に表現してみましょう。

俳句の部

審査員

日本文藝家協会会員
日本伝統俳句協会東北支部事務局長
俳句会「楡」主宰

赤間　学　先生

金

手を繋ぐ　花火と共に　鳴る鼓動

東北少年院　H・K

寸評：季語は「花火」で秋、初秋。季語「花火」が「手を繋ぐ花火」と「花火と共に鳴る鼓動」に掛詞として働いている句。花火の美しさが人々を繋ぎ、その花火の局面毎に一緒に喜びながら胸の鼓動が収まらないという感動の句。

銀

天気雨　躍り煌めく　若葉かな

盛岡少年院　K・M

寸評：季語は「若葉」で夏、初夏。おもに落葉樹の新葉のこと。やわらかく瑞々しい。風にそよぐ姿、雨に濡れるさまなどいずれも若葉は美しい。掲句は日が照っているのに雨がふる中で、きらきら光り輝いている若葉に感動している句。

銀

雪ふる日　待っているかな　友が言う

東北少年院　O・H

寸評：季語は「雪」で冬、三冬。雪は春の花、秋の月と並んで冬の美を代表する。雪国では時に白魔と恐れられる。掲句は雪を見ていると、家族や友を想い出してしまうが、「待っているかな」と友が言った、と事実を詠んで穏みる句。

銅

夏祭り　ひそかに込める　願い事

盛岡少年院　Y・Y

寸評：季語は「夏祭り」で夏、三夏。単に「祭」といえば都市の神社の夏祭をさす。昔は悪疫退散を目的とした。掲句は中七の「ひそかに込める」が、現在の夏祭の願い事の姿を詠まれている。祭を自分の願い、楽しみとしている所がいい。

銅

ウグイスと　口笛使い　会話する

東北少年院　オジギソウ

寸評：季語は「ウグイス」で春、三春。鶯は、春を告げる鳥。声を愛で、夏の時鳥、秋の雁同様その「初音」がもてはやされた。「鶯」の表記に。掲句は、鶯と口笛で楽しく会話している姿を写生していて秀逸である。

銅

夏の日に　自然豊かな　風が吹く

青葉女子学園　砂時計

寸評：季語は「夏の日」で夏、三夏。「夏の太陽の厳しい暑さ」と「夏の明易くなかなか暮れぬ一日」のいづれかをもさす。掲句は夏の日の暑さに、気持ちのよくなる風が吹いてきた。自然豊かな地球のそよ風に感動をした点がいい。

佳

夕暮れの　最近早い　秋が来る

東北少年院　O・M

寸評：季語は「秋が来る」で秋、初秋。秋立つ、秋に入る、今朝の秋、とも言う。立秋を迎え、暑い盛りだが、秋の到来を感じること。掲句は夕暮れが最近早くなったと感じた。秋が来たと感じた。夕暮れの早さの発見を詠んだのがいい。

佳

ばあちゃんの　やかんの麦茶　夏の味

東北少年院　E・Y

寸評：季語は「麦茶」で夏、三夏。「麦茶、麦湯」は殻付きのままの大麦を妙って煎じた飲料水のこと、冷やして飲むことが多く香ばしい。掲句は「ばあちゃんのやかんの麦茶」の表現が良く大変美味しそう。そうか夏の味か、家族の味か。

佳

カブトムシ　捕って逃がして　飛んでった

東北少年院　H・H

寸評：季語は「カブトムシ」で夏、三夏。雄は頭に大きな角をもち力が強い。背に甲と羽があって飛び回る。「兜虫」の表記に。掲句は兜虫の実態をしっかり観察し、「捕って逃がして飛んでった」と臨場感続れる表現がうまい。

佳

夏祭り　気持ち高鳴り　いざ参る

青葉女子学園　椿

寸評：季語は「夏祭り」で夏、三夏。掲句は夏祭りに参加する自分の気持ちをストレートに、「気持ち高鳴り」と表現し、周りの人々の高揚感も伝わってきました。最後に「いざ参る」とその決意表明した一句。これも又楽しい。

佳

蝉の声　ずっと聞いては　夏感じ

青葉女子学園　ブータン

寸評：季語は「蝉の声」で夏、晩夏。夏、樹木などにへばりついてやかましく鳴声を立てる虫。蝉がいっせいに鳴く騒がしさを蝉時雨という。掲句は蝉の声をずっと聞いていると夏を感じるよという一句。素直に蝉の声を詠んでいる。

川柳の部

審査員
宮城県川柳連盟 理事
水戸 一志 先生

金

振り返る　健全からの　歩行距離

東北少年院　Y・J

寸評：時折、自分のした事、してきた事を振り返るのは誰でもします。この句は、健全からの歩行距離という尺度による表現にした点が独特で、ありふれた反省句と違う印象です。成長や決意まで伝わってきます。

銀

青い空　見ている僕は　何色だ

盛岡少年院　C・I

寸評：明快な句です。青空の下に自分を置き、一点の曇りもない空と自分を見比べている。この冷静さまでには、一定の時間を要したかも知れません。いろいろ書かないのもよい点。内容が澄んでいます。

銀

何度でも　思い描くよ　幸せを

青葉女子学園　椿

寸評：ある日、白馬の王子が現われる。真面目に努力して道が開ける。誰もが、幸せを思い描いてタラレバの森をさまよっているのです。夢はとても大切。多くを語らずとも共感を呼ぶ句です。

銅

少年院　部屋から見る外　長方形

盛岡少年院　T・S

寸評：幾何の図形を読み込んだ新鮮さが魅力です。少年院という場所のイメージを四角形にして、ある種の緊張感を漂わせています。

銅

お母さん　勝手に捨てるな　俺の物

盛岡少年院　W・Y

寸評：親子喧嘩の場面が見えるようです。場所は子ども部屋。留守中に掃除に入った母親が壊れたプラモデルやエロ漫画などのがらくたを勝手に処分した。よくある話で、双方が冷静でないのもごくフツー。

銅

めんどくさ　いつから俺の　口癖に

東北少年院　白熊

寸評：大人を拒絶したい反抗期の自覚症状みたいで、正直さがかわいい。何を聞いてもフツーと答えるのと同類でしょう。

佳

母の味　何を食べても　舌鼓

東北少年院　オジギソウ

寸評：通常、母の味はいい大人になってからの回想が多いが、ここでは状況が違います。今現在、母の手作りの料理を味わっている。「何を食べても」の言葉から、深い深い感動が伝わります。

佳

青い空　鳥が自由に　鳴いている

盛岡少年院　I・S

寸評：作者の置かれた環境を念頭に、自由へのあこがれをと理解します。青空と鳥の飛翔は、世界は広く未来は明るいという象徴でしょう。

佳

大都会　良くも悪くも　深すぎる

東北少年院　K・S

寸評：何を言いたいのかは不明ですが、都会の持つ得体の知れない魔力を表現したいのだと思います。若者の視点を感じます。ビル、雑踏、誘惑など具体の言葉で語るとリアルな説得力が出たでしょう。

佳

夕立が　私の心　映すよう

青葉女子学園　アイリス

寸評：夏の午後、急に降り出す夕立。地面を強くたたきつけるような降りっぷりから、まるで今の私の気分そっくりという句です。気持ちを書くという姿勢を評価します。

佳

かわいいは　あいさつだから　言っただけ

東北少年院　Y・R

寸評：人や物を見て即座に「かわいい」と言う人たち。好意的反応だとは限らないようです。単なるあいさつだとは身も蓋もないじゃないか。作者は疑問視しているようにも見える句です。

文芸部門審査総評

―作文の部―

どの作品にも入院生活の現状を実感をこめて素直に表現し、心を飾らないことに感動しました。少年院にマイナスの気持を持ちながら入ってきたけれども、自分たちは税金という国の力で護られているありがさ指導してくださる先生方への優しさと尊敬の念、そうしてそこから生まれてくる後悔と反省。やがて将来への生き方を自分の過去をふり返りながら模索する過程が如実に作品に表れています。この思いをいつも心に持ちながら清い更生生活を送られることを強く願っています。

寄せられた四編の作品は読者に訴えかける表現力がありました。どれも大差なく順位をつけるのい苦労しました。ますます作文力に磨きがかかるよう期待しています。

佐藤　淑子

―詩の部―

今年も応募総数が7編だったが、読み応えはあった。金賞の椿さんの作品に惹かれた。散文のようだが、自分のマイナーな生き方や、母の何物にも代えがたい愛情の深さを率直に書いていて、心に響いた。また、どの作品にも、前向きに生きようという少年の皆さんの思いがこもっている。人生はまだ長い。一度挫折しても、必ず立ち直ることができる。これからもどうか詩や作文を書き続けてほしいと思う。

原田　勇男

―短歌の部―

今年は九名が、合計で十五首の短歌を寄せてくれました。どの短歌にも、作者の思いが宿り、いい作品でした。

入賞の四短歌は、自分の思いを伝える一番いいと思う語や語句を選び出しており、一首に力が宿るものでした。短歌は言葉で、思いを伝える文学なので、言葉にこだわることは大切です。

とにかく、たくさん短歌を作ることが上達の極意です。

上手に作ろうとするよりも、自分の目や心が何を見つめ、何を感じているのかをじっくりつかむことが第一歩です。

私は入門期に、思いを色で表現する挑戦をしたものです。無から有を創り出す楽しみを、多くの人たちがたくさん味わってほしいと願っています。

来年に向け、たくさんの短歌を作り、わくわくして暮らしてください。

上林　節江

―俳句の部―

三十一句の応募俳句がありました。素直な新鮮な作品が多く、受賞句を選ぶのに途惑いながら選句しました。

選句の基本は季語を活かしきっている俳句かどうかで概ね決定しました。多くの佳作に出合えて感激しています。

一方、審査員により選句基準が違うので、自ずと受賞結果も違う事もありますので、今回の受賞等に一喜一憂せず、寸評等を読んで頂き、納得をするかは応募作者が決めて頂ききたいと思います。

今回受賞された作品は審査員も作者自身も大切な一句になると思います。又、作品を参加者の皆様と読み合って楽しむのも俳句の楽しみ、勉強の一つだと思っています。

今後とも歳時記を片手に俳句を嗜んで下さい。又、今回の寸評の季語は、「秋は初秋、仲秋、晩秋の1か月毎に秋を細分化し、3か月間を三秋」として四季の移ろいを感じてほしく特に明記しました。さらに、季節を身近に感じて、俳句を人生を大切に、素晴らしい作品を応募される事を期待しています。

赤間　学

―川柳の部―

川柳は人間の喜怒哀楽を表す文芸です。本首を吐くとも心の中の叫び声とも言われます。若者らしい感情表現と正直な心情の見える作品を選びました。欲を言えば、ユーモアが足りません。それどころじゃない環境かもしれませんが、世の中には「作り笑い」という便利なものもあるのです。また、笑いは人間の専売特許でもあります。

惜しくも選外になりましたが次の作品も魅力がありました。

恥ずかしさ　捨てる勇気が　あったなら（東北少年院　Y・T）

君と見た　大輪の花　自が舷む（東北少年院　W・R）

水戸　一志

絵画の部

審査員
宮城県芸術協会理事長
吉田 利弘 先生

金

ここだけが幸

盛岡少年院　F・A

寸評：静かな空気が漂う中に、明るくそびえ立つ小さな教会。親子を思わせる三人が、静かに訪れている。そんな雰囲気が構図、色彩の工夫で見事に描き表されている作品である。

銀　自分

東北少年院　Y・T

寸評： 中心に描かれたハートのマーク。黒い世界から解き放たれ、次第にバイオレットへと変容し、やがては燃える朱色へと開き輝く。作者の気持ちの変化が描き表されているような作品である。

銀　蓮

青葉女子学園　椿

寸評： 画面の中央に鎮座する一輪の蓮の花。周りは荒れ狂う濁流か、押し寄せる激しい波濤を描きながらも、作者の落ち着いた心境を確かに表現している作品である。

銅

里山の風景

盛岡少年院　K・K

寸評： 茅葺屋根のある里山に秋を迎え、収穫に忙しい老夫婦。小屋の軒先には、たくさんの大根が干され厳しい冬を迎える準備がなされている。秋の静かな空気を漂う色合いに、作者の工夫のあとが感じられる作品である。

銅

田舎

盛岡少年院　S・S

寸評： 遠方の山に雪を残しながらも、里山は若葉への変わり、田んぼに水がはられ、桜の花もうたうように咲き誇っている。乳を蓄えたヤギも、やがて新しい命を迎えようとしているのか、喜びの表情が表れている。明るい春の日差しの下もと、生きるものすべての喜びが表現された作品である。

銅

南国

東北少年院　H・K

寸評： 南の島に、赤い太陽の光が照りつけ、暑く乾いた空気が駆け抜けていく。澄んだ海原から静かに波が押し寄せている。人の姿は見えず、大きくそびえ立つヤシの木が印象的。南国の夏の日のひと時を、構成要素を少なくしダイナミックに描き表した作品である。

花　佳

盛岡少年院　T・S

寸評： 名も知らない花が、画面いっぱいに咲き誇る朱色の花。それを取り囲むように黄色の花が彩っている。さわやかなブルーの背景にに包まれ、さわやかな空気が漂っている。作者の心境も、いつもそのようにあって欲しいと思うような作品である。

佳　フラミンゴ

東北少年院　K・T

寸評： 親子のフラミンゴであろうか、仲良くたたずんでいる。どんな会話をしながらの羽繕いなのか、和やかな雰囲気が感じられる。青色の画用紙の選択も効果的で、白と肌色のフラミンゴの色調が強調された作品である。

夕暮れ　佳

東北少年院　H・K

寸評： いつ季節の夕暮れなのだろうか、人々を一日の活動に導いた太陽が、その仕事を終えたように西の海へと沈んでいく。愛おしむように、夕焼雲が包み、星空が労をねぎらう。夕暮れの様子の描写をとして、支え合いの温かさを表現したかのような作品である。

佳　ススキ山

盛岡少年院　W・Y

寸評： 奥に岩手山を想わせるような山も冬を迎え、次第に白色へと変わりつつある。里山の集落も、すっかり冬支度を整え、静まりかえっている。そんな中、秋の名残を惜しむように、ススキの群れだけが冷たい風に揺れている。冬を迎えた静かな情景が確かに表現された作品である。

賑やかな住宅地　佳

盛岡少年院　N・K

寸評： いつの時間帯だろうか、両脇に広がる商店街を、それぞれの用のために人々が行き交う。のれんをかき分け、大売出しの店に入る人。ショウウインドウの前で語り合う二人。確かな透視図法の中に、まさに賑やかさが確かに表現された作品である。

ポスター・カレンダーの部

審査員

宮城県芸術協会運営委員

鈴木　智枝　先生

金　美しい海へ

東北少年院　H・H

寸評：配色も彩色もたいへん美しい。スッキリとした良いポスターです。

銀

AUGUST

東北少年院　K・D

寸評：夏を表現していてカレンダーとしての役目はできています。文字の大きさを考えて下さい。

銅

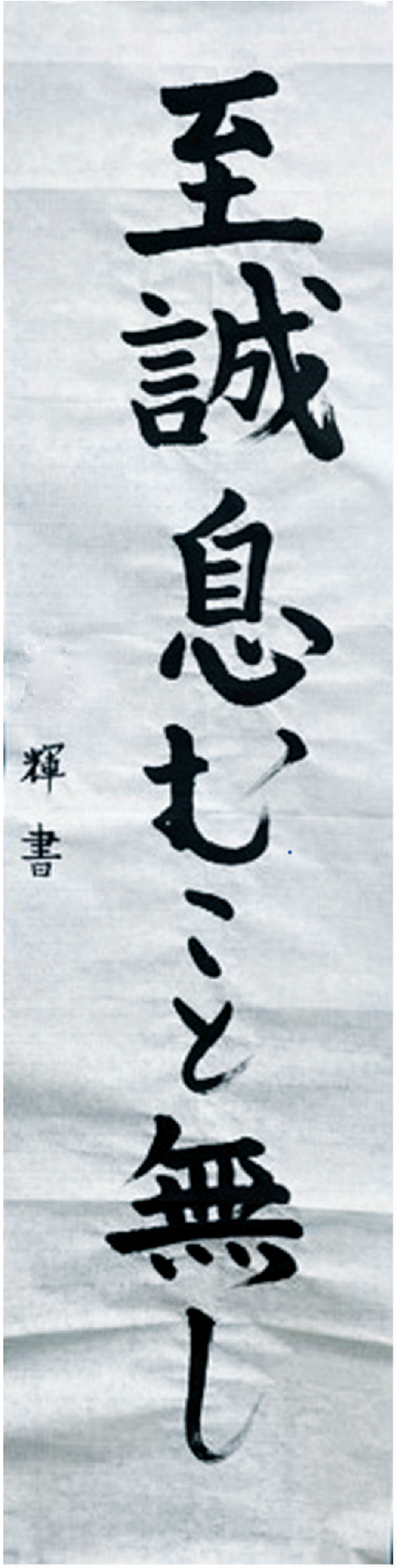
暴力とは

東北少年院　W・R

寸評：文字は良いですが、標語を簡潔にすると良く、拳の腕を右にもう１本描くと良い。

毛筆の部

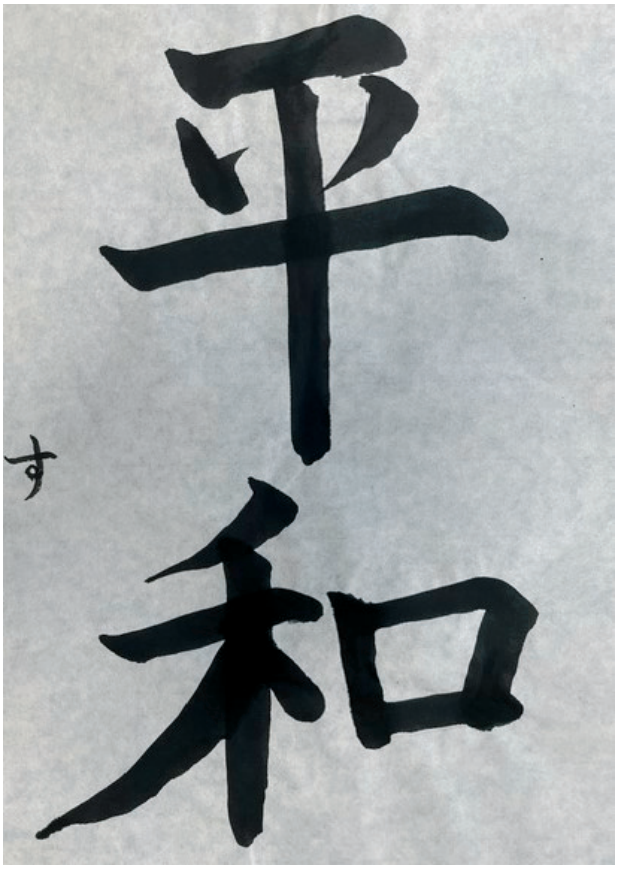
審査員
東北書道会副会長
村山柳雅先生



金　誠息むこと無し

東北少年院　輝

寸評：出品作中唯一の半切作品。
行の中心を通し点画も確実。
実力を感じる。

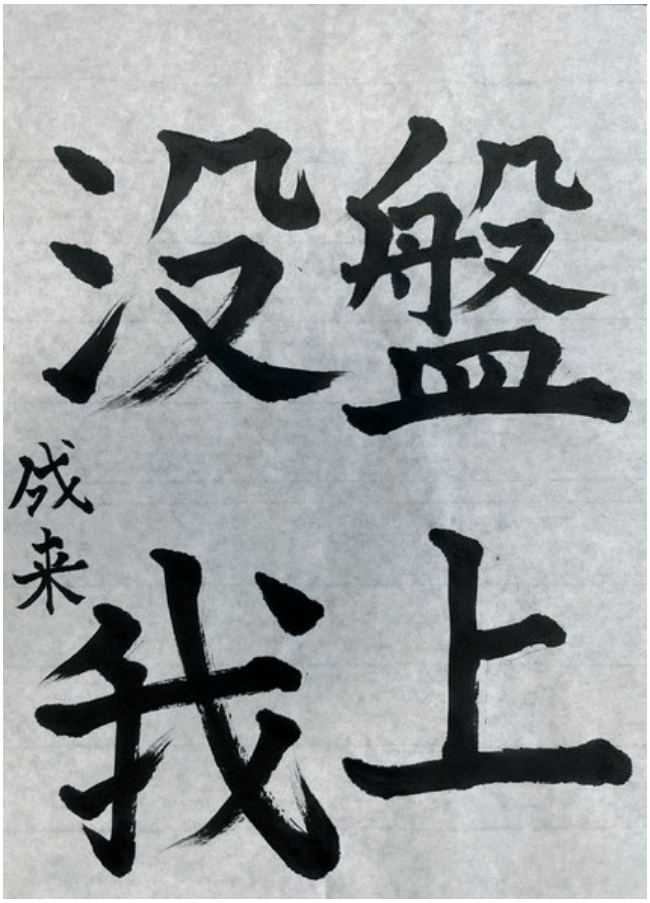


銀

平和

青葉女子学園　す

寸評：起筆、収筆等用筆確実で、字形も整い穏やかな書。



銀

盤上没我

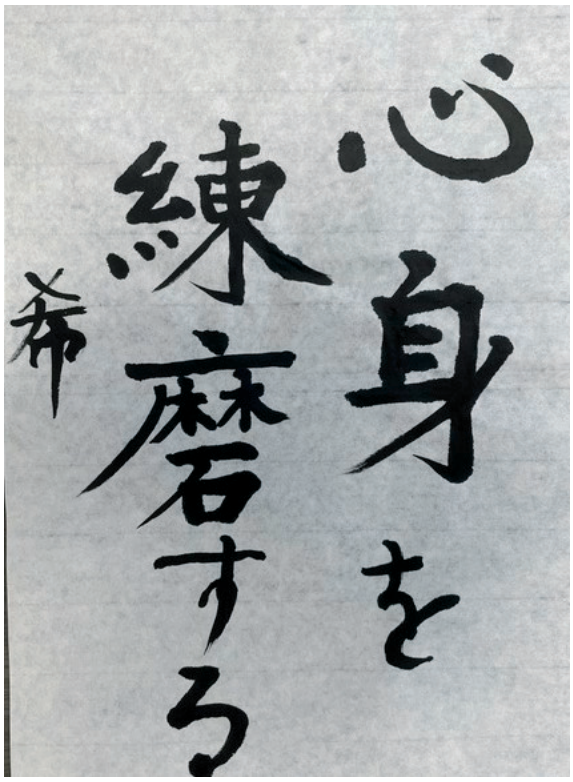
東北少年院　成来

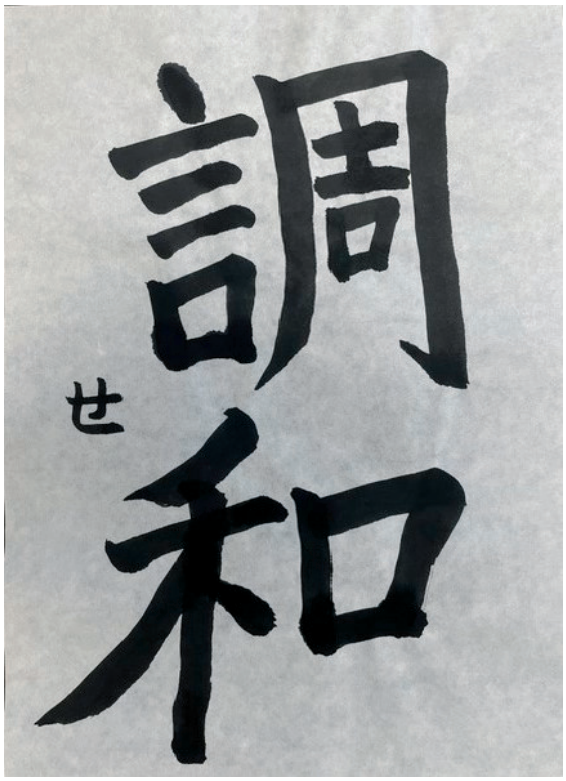
寸評：難易度高い繁画の文字もある中で疎画の文字共よく調和している。

銅　心身を錬磨する

東北少年院　希

寸評：調和体の作品。心境を書いたのか、気魂籠り注目度高い。

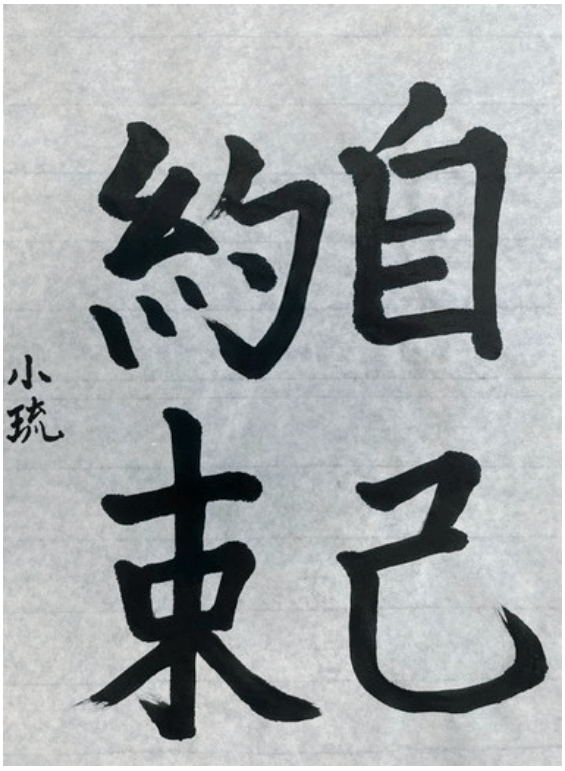




銅　調和

青葉女子学園　せ

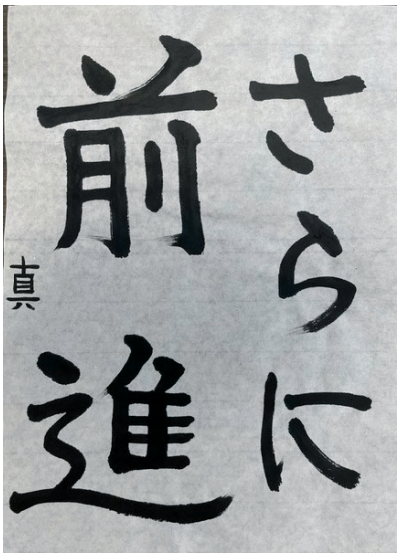
寸評：一生懸命さが伝わってくる。丁寧な運筆で好感度高い。



銅　自己約束

東北少年院　小琉

寸評：起筆・転折が特に目を引く。確実な打ち込みで安定している。

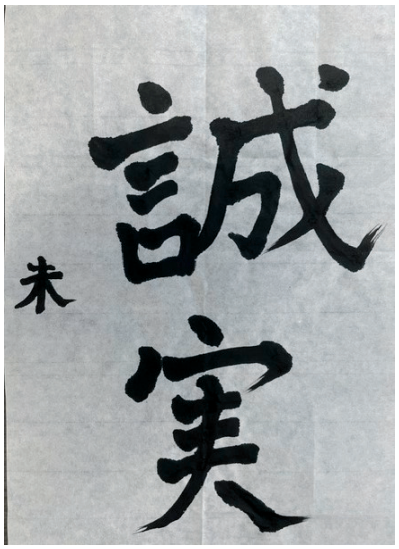


佳

さらに前進

東北少年院　真

寸評： 漢字を大きく書き、注目度高く効果を上げた。落款も立派。

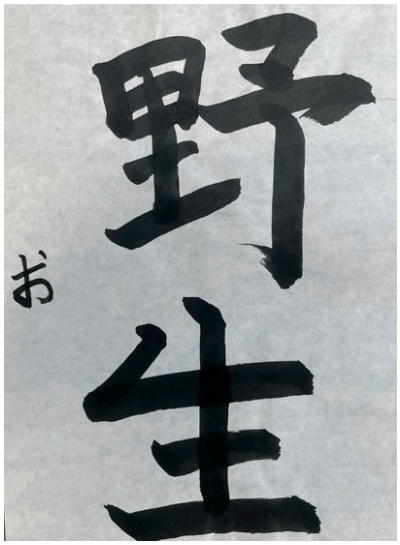


佳

誠実

東北少年院　未

寸評： 転折・払い・ハネ等若さ溢れている。元気いっぱいに書きあげている。



佳

野生

青葉女子学園　お

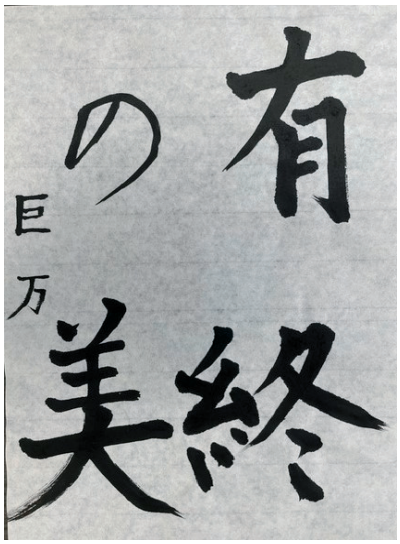
寸評： 送筆に乱れなく、確りとした書線でフレッシュな書。

佳

洗心

東北少年院　大

寸評： 迫力ある払いでアピールし成功した。若者らしく元気溢れる作品。



佳

有終の美

東北少年院　巨万

寸評： 漢字を大きく、平がな小さく、基本を踏まえて書き上げている。

硬筆の部

審査員
東北書道会副会長
村山　柳雅　先生

言葉の力

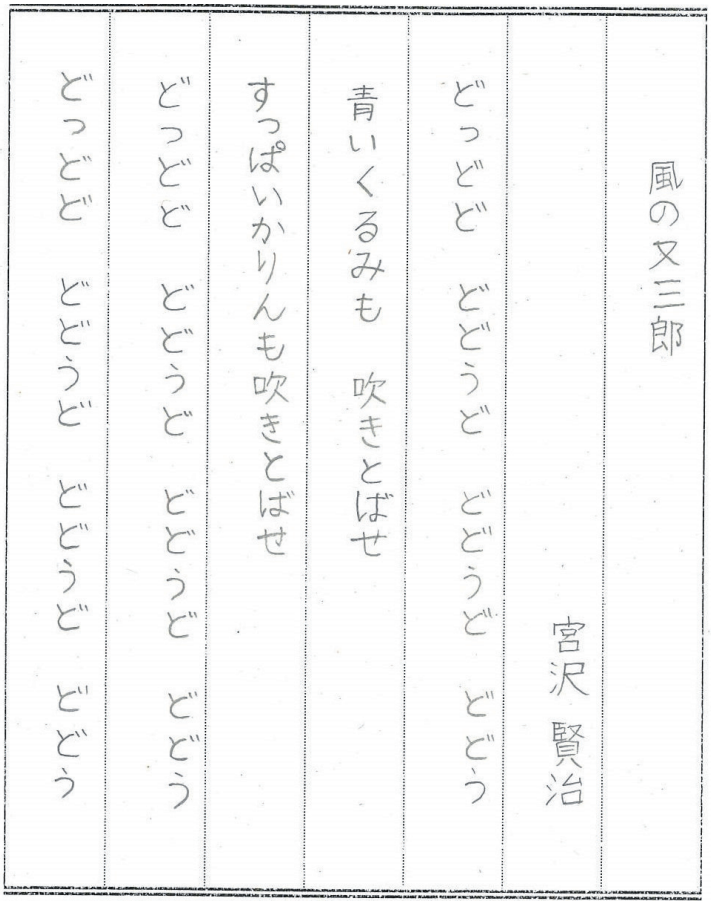
本当は全身でその花びらの色を生み出している大きな幹、それをその一語一語の花びらが背後に背負っているのである。そういうことを念頭におきながら、言葉とい

金

言葉の力

青葉女子学園　S・M

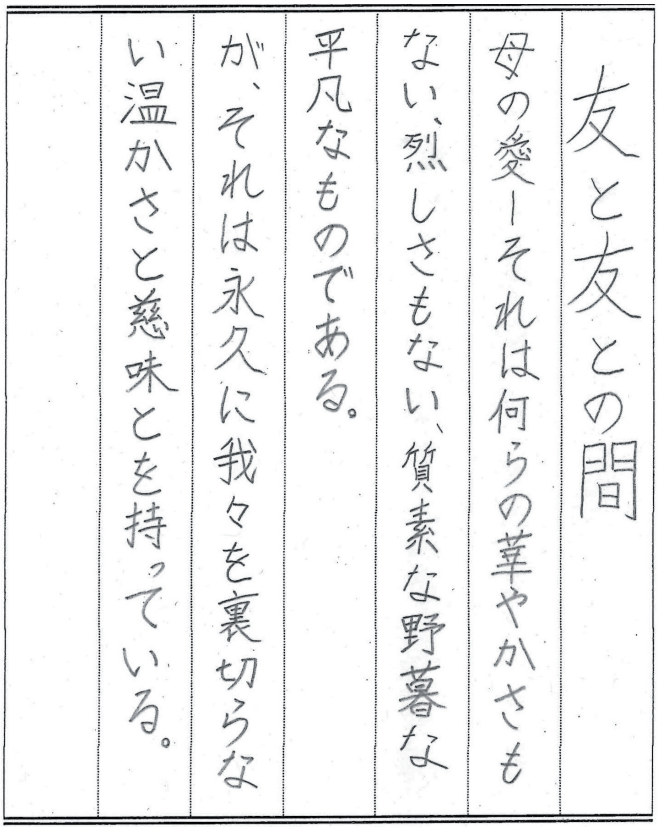
寸評：漢字と平かなのバランス良く、行も中心を通して確実に仕上げた。



銀 風の又三郎

盛岡少年院　S・S

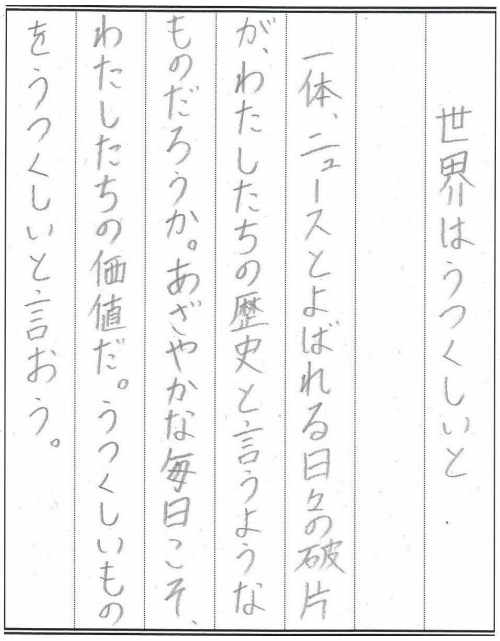
寸評： 同一文字の連続も、字形乱れず終始安定して書いている。



銅 友と友との間

東北少年院　S・R

寸評： タイトル大きめに、本文は文字数を考慮して、大きさを整えて書き上げた。



世界はうつくしいと

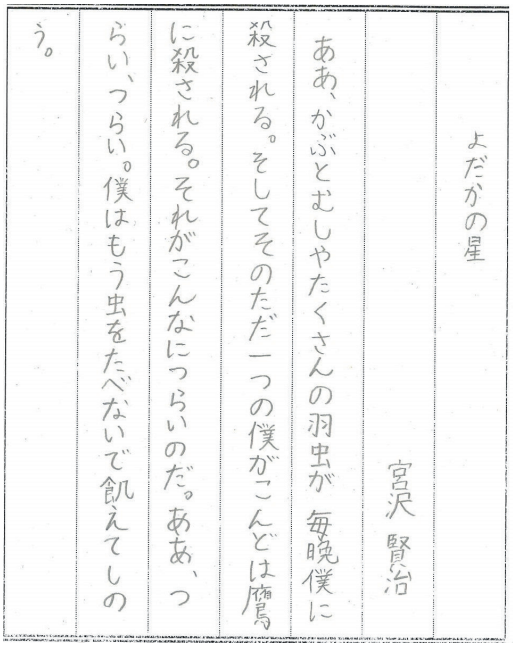
一体、ニュースとよばれる日々の破片が、わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。うつくしいものをうつくしいと言おう。

佳

世界はうつくしいと

青葉女子学園　O・R

寸評：各行共、中心を通して乱れなく、丸味ある文字で優しい雰囲気漂う。



よだかの星

宮沢 賢治

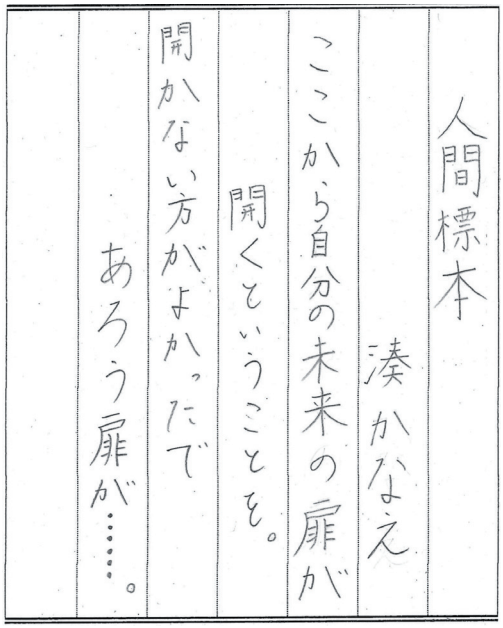
ああ、かぶとむしやたくさんの羽虫が毎晩僕に殺される。そしてそのただ一つの僕がこんどは鷹に殺される。それがこんなにつらいのだ。ああ、つらい、つらい。僕はもう虫をたべないで飢えてしのう。

佳

よだかの星

盛岡少年院　W・Y

寸評：文字数多い文章を終始一貫、調子の狂いもなく安定感ある。



人間標本

湊かなえ

ここから自分の未来の扉が開くということを。

開かない方がよかったで

あろう扉が……。

佳

人間標本

東北少年院　T]・T

寸評：少字作品。大き目の字を確実に書き好感の持てる作品。

書画部門審査総評

―絵画の部―

今年もたくさんの作品が寄せられました。それぞれに表情があり、作者の思いが、形、色、構図として表現されています。どのような視点から受賞作品を選考すればよいのか迷うほど、変化に富み個性あふれる作品ばかりでした。残念ながら、受賞しなかった皆さんも含め、これからも、時に考え、時に大胆に絵筆をふるって楽しく描き続けてください。

吉田　利弘

―ポスター・カレンダーの部―

3点の作品とも丁寧な仕上げであり、良いと思いました。それぞれの作品については、寸評どおりです。時代の流れか、紙に描くポスターやカレンダーは必要性が少なくなりました。寂しい気が致します。

鈴木　智枝

―毛筆の部―

群を抜く実力者の力量が感じられる作もあった中、全体には用筆に配慮し、起筆・送筆・収筆等確実性を追った作品が多く、努力の跡を感じる作品ばかりで、関心して見入るばかりだった。

村山　柳雅

―硬筆の部―

各作品共、終始丁寧に書き上げていて、真剣に取り組んでいる様子が伝わり好感度が高い。全体に筆圧の強い作が少なく、自我薄い感じがありアピール不足。使用する鉛筆の検討があってもよいのかと感じた。

村山　柳雅

編集後記

本年度も、みちのく書画文芸コンクールとして書画作品及び文芸作品の応募を募りましたところ、各施設からこれまでと変わりなく多数の作品が寄せられ、本書画文芸作品集の発刊の運びとなりました。

文芸作品については、御審査を賜りました先生方の多大なる御協力のもと、各分野において金賞、銀賞、銅賞及び佳作作品を選定することが叶いました。

紙面の都合上、一部しか掲載することができないことが残念です。

末筆になりましたが、本誌の刊行に当たり、御審査と御指導を賜りました先生方に、誌上を借りまして厚く御礼申し上げます。

仙台矯正管区

「みちのく」少年編第45号
令和７年３月発行

編集発行　仙台矯正管区第三部
〒984-0825　仙台市若林区古城３－２３－１
TEL　０２２－２８６－０１７８

仙台矯正管区

過去の作品はこちらから
御覧いただけます→

仙台矯正管区

仙台矯正管区フロントページ
https://www.moj.go.jp/kyousei1/kyousei08_00002.html